

本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立河口小学校

幼保小の学びをつなぐ ～「幼保小の架け橋プログラム」としての交流活動～

1 目的と経緯

本校では、幼児期から児童期への移行をスムーズに、そして育ちと学びをつなぐため、保育所や幼稚園、認定こども園との連携・接続を重視し、国が示す「幼保小の架け橋プログラム」の趣旨に沿って、計画的な交流活動を進めています。子供たちが安心して小学校生活へ進むためには、就学前と就学後を“別々の世界”とせず、互いの学びや環境がゆるやかに繋がっていることが大切です。

2 内容

11月17日（月）1年生と河口保育所年長児が「やきいもパーティー」で交流活動を行いました。1年生は、年長児を迎えるための環境をどう整えるか、そして、お芋が焼けるまでの時間をどう過ごすかと年長児が楽しめるか、生活科の時間の中でたくさん話し合い、アイデアを出し合いました。



交流に先立ち、1年担任と年長担任が事前に打ち合わせを行い、双方の目的や期待する姿を明確にしていきました。年長児は「小学校の様子を知り、期待を持つこと」、1年生は「思いやりをもって年長さんを迎えること」「自分たちの学びを生かして役割を果たすこと」等、互いに育てたい姿を共有し、互惠性のある交流となるよう丁寧に準備を進めました。

その結果、多目的室に小さな“お祭り広場”が誕生しました。おもちゃ屋さん、アクセサリ一屋さん、魚釣り、もりのレストラン、雑貨屋さん、的当て、楽しい出店が並び、どの出店も秋の木の実や落ち葉など、自分たちが集めた“秋の素材”を工夫して活用していました。自然素材を使ったアクセサリや手作りおもちゃは、どれも子供らしい温かみがあり、年長児は目を輝かせて楽しんでいました。また、1年生が協力して作ったお神輿を担ぐ活動もあり、活気と笑顔があふれる時間となりました。

3 成果と課題

年長児にとっては、1年生の優しい関わりや学校の雰囲気に触れ、「小学校ってこんなところなんだ」「来年が楽しみだな」という期待につながる貴重な機会となりました。1年生にとっても、相手の立場に立って遊びを工夫したり、声をかけたりすることで、入学当初からの成長が随所に見られました。「どうしたら楽しんでもらえるかな」と考える姿は、まさに学びの主体性が育っている証であり、大きな成長として感じられました。